

事業所名 グループホーム小町

運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和 5年 2月 24日（金）14時00分～		時 分
参加者		議 題
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	2名	3 利用者様状況報告
市職員	1名	4 参加者様からのご質問とグループホーム小町の返答
地域包括支援センター職員	1名	5 身体拘束適正化検討委員会の議題
事業所	3名	6 次回会議開催予定日
会 議 録		
<p>☆2/24（金）に運営推進会議を開催予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面開催で報告・意見照会を行いました。</p> <p>☆新型コロナウイルス感染拡大防止対策について 感染拡大を防ぐ為に職員一人一人が人込みを避け、マスクの着用、手洗い、うがい、手指消毒を実施し、三密にならない様に危機感を持ち、自己管理を徹底していきます。利用者様その他介護職員一同、体調を崩さない様、衣類の調節や十分な水分補給、休憩を行い、健康管理に努めつつ、安心安全な体制でグループホームでの業務に取り組んで参ります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。</p> <p>1. 行事報告 【1月】 ・1日の昼食におせち料理を召し上がりました。 ・10日に八王子神社へ初詣に行き、御参拝を行いました。 ・16日に入居者様のお誕生日会を行い、お祝いをしました。 【2月】 ・3日 入居者様のお誕生日会を行いました。 ・11日 節分の日イベントとして恵方巻づくりやケーキ作りを行いました。 ・11日 入居者様のお誕生日会を行いました。</p> <p>2. 今後の行事予定 【3月】 ・3日 ひな祭りを行う予定です。 ・14日 施設内でいちご狩り体験を行う予定です。</p>		

3. 利用者様状況報告(令和5年2月24日現在)

- ・利用者様 8名(女性8名 男性0名)
- ・平均年齢 88歳
- ・平均要介護度 2.8

4. 参加者様からのご質問とグループホーム小町の返答

Q インフルエンザやコロナ感染の不安が続く毎日と思われます。感染拡大防止の観点から、ご家族との面会や交流、外出等が難しいといった声も聞きます。現在、面会や外出の取扱いはどのようになっていますか。また、地域交流等はどのような状況か教えていただきたいです。(瀬戸市役所高齢者福祉課様からのご質問)

A いつもお世話になっております。現在、面会や外出の扱いですが、感染拡大防止の観点から、原則、面会禁止や制限を行っておりますので、お電話やお手紙を通じてコミュニケーションを取っております。地域交流も同じ方法となります。

(グループホーム小町の回答)

Q お世話になっております。いつも丁寧なご報告をありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。(地域の保育園様からのご感想)

A いつもお世話になっております。ご感想頂きまして有難うございます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。(グループホーム小町)

Q お世話になっております。特にありません。身体拘束の記事は興味を持って拝読させて頂きました。(地域包括支援センター様からのご感想)

A いつもお世話になっております。身体拘束の記事に興味を持ってお読み頂きましてありがとうございます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

(グループホーム小町)

5. 身体拘束適正化検討委員会

議題 「食事拒否による身体拘束について」

認知症の人が食事を拒否したり、飲み込めずに食べられないなど、食事を摂らないことがあります。この現象は認知症の症状だけではなく様々な理由が考えられます。認知症が進行すると、例え本人に理由があったとしても上手く伝えられないこともあります。食事の拒否や食べられないことがあった場合、どの様なことが原因でどの様に対応することが望ましいでしょうか?決まった時間に召し上がらないからと言って一方的に「いま食べてください!」などと言ったスピーチロックをしたり、無理やり食べさせる・食べるまで席を立たせないなどと言った行為は身体拘束につながります。今回は食事拒否があった場合の原因や対処方法を考察していきます。グループホーム

小町ではこの様に食事拒否や食べられないことがあっても身体拘束をせずに臨機応変に対応をしたり、支援をしています。

食べない原因とは何か？

認知症の高齢者が食事を摂らない原因は認知症の症状だけではなく、身体的要因や精神的要因もあり、様々です。一般的に考えられる原因がいくつかあります。

1 食事の意味が理解できない

物事が認知できずに理解できなくなることを「失認」と言います。失認により食べ物が認識できないことがあります。また箸やスプーンの使い方がわからないなど、行動・実行することができないことがあります。これを「失行」と呼びます。失行により食事があっても食べ方が分からなくなることがあります。そういった場合は一緒にお食事をしたり、声掛けをしながら食べ物であることを認識・理解して頂いたり、時には動作を真似て頂くといったアプローチがあります。

2 無気力・無関心・抑うつによって食欲がない

認知症の心理・行動症状（BPSD）のひとつに無気力になったり無関心になったりする症状があります。認知症の人がこの様な状態になると食べる意欲が失われ、食事にも興味を示さなくなっていくます。また認知症の人が末期になると寝たきりとなることが多く、ますます食事を摂らなくなっていくます。気分が落ち込んでいく抑うつの状態によっても食欲がなくなっていくことがあります。

3 意思を伝える事ができない

認知症の人の中には言葉によって上手く意思を伝える事ができない人がいます。体調が悪いかもしれないのに、それを上手く言葉で伝える事ができない人や、口の中が痛い・歯が痛いなど、痛くて食べる事ができない人もいます。

4 環境が落ち着かない

食事をする環境に対して居心地が悪いということがあります。毎食環境が変化していたり、音楽やテレビの音で気が散ってしまうこともあります。また他の人の話し声が気になって食欲が減退してしまうこともあります。認知症の人の中には、ちょっとしたことや些細な事でも心が落ち着かず、食事に集中することができなくなってしまうことがあります。またテーブルの高さが違っていたり、食事をする姿勢が悪かったり、食器が持ちにくかったりなど、食べづらい環境も食事拒否となる原因のひとつとして考えられます。

5 ADL(日常生活動作)の低下

高齢になっていき、身体機能や認知機能が徐々に衰えてくると、ADLの低下が出てきます。筋力の衰えなどから椅子に座っている姿勢が保てなくなってくることもでてきます。その様な人が食事をする際に、座って食べる事が難しくなったり、1人で食べる事が難しくなってくることもあります。また摂食・嚥下機能の低下や消

化器官の老化も進行していきますので、誤嚥になって食事が億劫になり食事意欲が減退したり、胃や小腸での消化・吸収も効率が悪くなったり大腸の働きも悪くなり便秘・下痢になることも考えられます。

6 薬物の影響

服薬しているお薬によっては味覚が変化することもあります。また食事中に眠くなってしまうことも考えられます。

食事拒否や食事をしない時には、支援する側はどうすれば良いのか？

1 無理に食べさせない

食事をしないからといって無理やり食べさせるという行為はフィジカルロックにつながる行為になります。また食べたくもないのに「いま食べてください！」という言葉掛けなどはスピーチロックであり、身体拘束につながる行為になります。加えて、無理やり食べさせてしまうと、誤嚥のリスクもありますし、咀嚼せずに食べてしまえば、便秘や下痢の原因となることもあります。きちんと食事を摂るという事は大切ではありますが、必ず認知症の人の立場になって考えて行動することが重要です。食事をしないのは何か理由があります。時間をずらしてみるといったことや、場合によっては食べて頂かないという柔軟な対応も必要となります。

2 話を聴いて体調を確認する

体調が悪かったり、口腔内に問題があって食べられない場合があります。そういった場合はお話を聴いたり、体調のチェックをします。便秘や下痢の場合、スッキリすると食事をすることがあります。

3 スピーチロックをしない・怒らない

認知症の人には、そもそも食事という事を認識できていないことがあります。また食事をする動作に時間がかかることさえあります。その様な時には命令したり、責めたり、怒ったりしても解決はしません。むしろ食事に対するマイナスイメージが心に残ってしまい、ますます食事が嫌になってしまうことにつながります。気持ちに余裕を持っておおらかに心穏やかに接する努力が必要となります。

4 環境を変えてみる

テーブルの高さを変えてみたり、食事が食べやすい位置にあるかを確認したりすると食事がスムーズにできることがあります。また車椅子に座っている人の場合は、背中にクッションを挟んだりするなど、食事しやすい姿勢が取れる様に工夫することも効果的です。

5 食事形態を変えてみる

例えば皆さんと同じ様にお茶碗にご飯を入れてお出ししても召し上がらないことがあります。それはお茶碗に入っているごはんが箸では掴みにくくて、食べようとし

でもすぐにこぼしてしまっていて嫌になっていることもあります。ご飯が嫌いになったわけではなくて、ごはんが上手く握めなくてこぼしてしまうから、食べることを諦めていることがあります。そういう場合は、ごはんをひと口サイズに丸めてミニおにぎり風にすることや、スプーンを用意することも効果的です。

まとめ

食事拒否の際に、その原因や対策を考えずに「食事の時間だから食べて頂く」といった強引な考えや、言葉で意思が伝えられず、支援なしに食べる事ができない認知症の人に対して無理やり食事を食べさせたり、食事に対して命令口調や怒るといった言動は、身体拘束であるスピーチロック(言葉による拘束)となります。グループホーム小町ではそのようなことがない様に食事の時間も「ゆったり・にっこり・1日を」という理念のもと、利用者様のお話を聴いたり、状態の変化を日々観察しながら、利用者様のペースに合わせて今後もチームアプローチを続けていきます。

6. 次回会議開催予定日

2023年4月28日(金) 14:00 開催予定

以上